

上田市文化財調査報告書第42集

# 上田藩主屋敷跡

長野県上田高等学校第二体育館  
解体新築事業に伴う試掘調査報告書

1991年3月

上田市教育委員会

## 序

上田市の象徴『上田城』の築城は、天正11年（1583）、真田昌幸によって着手され、同13年頃には一応の完成を見ていたと考えられます。その後この城は徳川の大軍を2度にわたって退け、その名を天下に轟かせたものの、天下が徳川の掌中に収まるや、破却を命ぜられます。その際、昌幸の子であり、時の城主であった信之は、本来本丸内にあるべき藩主居館を三の丸に構えたのです。

現在当地は長野県上田高等学校として使用されており、このたび、体育馆の新築にともない、発掘調査を実施しました。調査の結果は本文に記されているとおり、当時の遺構を発見することはできませんでした。学校の正門である表門は、寛政2年（1790）再建のものであり、往時の姿を良くとどめており、これに続く土壘、堀、土塹は当時そのままではないものの、居館の東の構えを偲ばせています。

上田高校校歌の一節に、『関八州の精銳をここに挫しき英雄の、心のあとは今もなお、松尾が丘の花と咲く』とあります。まさに、上田市の偉大な先人の心のあとを後世に引き継ぐべき私どもの使命は、現在益々その重要性を増してきており、同時に、引き継いだ遺産を活用し、この上田の地に文化の花を咲かせなければなりません。

最後となりましたが、本調査にあたり御理解をいただいた長野県教育委員会及び上田高校の関係者各位、御協力いただいた調査関係者各位に衷心より御礼申し上げ、序と致します。

平成3年3月25日

上田市教育委員会教育長 内 藤 尚

## 例　　言

- 1 本書は、長野県上田市大手一丁目4番32号、長野県上田高等学校敷地内に所在する上田藩主屋敷跡遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 上田藩主屋敷跡遺跡の試掘調査は、長野県上田高等学校第二体育館の解体新築事業に伴い、長野県上田高等学校より委託を受け、上田市教育委員会が主体となって実施した。
- 3 現場調査は上田市教育委員会の組織した上田藩主屋敷跡発掘調査団に事業委託し、平成2年12月7日から12月9日にかけて実施された。
- 4 遺構実測図の作成は、川上元、塩崎幸夫が行い、トレースは市村みつ子が行った。
- 5 本書に使用した写真は、塩崎が撮影した。ただし、明治期の古写真については上田市立博物館より提供していただいた。
- 6 本書の執筆は第2章第1・2節、第4章を川上が、他を塩崎が執筆した。
- 7 本書の編集は塩崎が行った。
- 8 本調査に関わる資料はすべて上田市教育委員会の責任下に保管されている。その際に用いる遺跡の略号は「UDH」である。
- 9 本書が上梓されるまでには、多くの方々や諸機関より御指導、御協力を賜った。感謝申し上げる次第である。

# 目 次

例 言

目 次

挿図目次

図版目次

第1章 調査の経緯 .....	1
第1節 調査に至る経過 .....	1
第2節 調査の体制 .....	1
第3節 調査日誌 .....	2
第2章 遺跡の位置と環境 .....	3
第1節 自然的環境 .....	3
第2節 歴史的環境 .....	3
第3節 基本層序 .....	6
第3章 調査の結果 .....	7
第1節 調査の概要 .....	7
第2節 造構 .....	8
第3節 遺物 .....	9
第4章 調査のまとめ .....	11
図 版	

## 挿図目次

第1図 遺跡の位置 .....	5
第2図 調査地点位置図 .....	5
第3図 基本層序模式図 .....	6
第4図 調査区域全体図 .....	7
第5図 建物址実測図 .....	9
第6図 御屋形古図（昭和15年刊『上田市史』付図） .....	12

## 図版目次

図版1	1. 上田藩主屋敷（北東より）	2. 上田藩主屋敷表門（東より）	
図版2	1. 上田藩主屋敷（明治21年撮影）	2. 上田藩主屋敷式台（明治30年頃撮影）	
図版3	1. 調査区域全景（南西より）	2. 建物址（南より）	3. 建物址（東より）
図版4	1. 建物址部分（南東より）	2. 建物址部分（西より）	3. 建物址部分（東より）
図版5	1. 出土遺物（陶器1~6）	2・3. 出土遺物（磁器7~13）	
図版6	1. 出土遺物（磁器14~17）	2. 出土遺物（角釘18）	3. 墨書き（磁器11）
	4. 出土遺物（軒瓦19・20）		

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経過

旧上田藩主屋敷は上田城三の丸に所在し、真田、仙石、松平の3氏11代にわたる上田藩歴代藩主の居館であり、藩の政庁であった。明治維新以降、藩主屋敷跡は学校や裁判所として用いられ、明治8年に第十六中学校予科が設置されて以来、小県郡立高等小学校、郡立小県蚕業学校、長野県上田中学校、長野県松尾高等学校などの様々な変革を経て現在の長野県上田高等学校に至っている。その間幾度となく増改築が行われ、旧藩主屋敷建物は式台部分が市内鍛冶町本陽寺に移転されて現存する以外はすべて取り壊され、現在の藩主屋敷跡には表門の他、土蔵1棟、土塁、築地塀、堀の一部を残すのみである。

上田藩主屋敷跡については、学校時代の増改築が盛んであったことなどを理由として、さしたる調査もされることなく、昭和50年以来鉄筋コンクリート校舎への全面改築事業が進められてきた。その間、長野県内でも城館跡遺跡の発掘調査が増加し、とくに松本城本丸御殿、二の丸殿舎（松本市）、高梨氏館跡（中野市）等の調査では目覚ましい成果が報告され、居館跡遺跡の調査の重要性が改めて認識されるようになった。

このような状況の中、長野県上田高等学校では校舎改築事業の最終事業として平成2年度、敷地北東部に所在する第二体育館の解体新築事業を計画したが、幕藩時代の造構の存在が予想されたところから、試掘調査の必要があると判断され、上田市教育委員会に対して試掘調査の依頼が行われた。

市教育委員会では長野県教育委員会と協議した結果、委託費用240千円をもって試掘調査を実施することとし、文化長官に対し平成2年11月1日付上教社第233-1号により発掘調査の通知を提出した。

平成2年11月26日、長野県上田高等学校と上田市との間で発掘調査委託契約が締結され、市教育委員会では上田藩主屋敷跡発掘調査団を新たに組織し、平成2年12月3日付で同団との間に事業委託契約を締結した。

現場調査は平成2年12月7日より着手された。

## 第2節 調査の体制

上田市教育委員会では新たに上田藩主屋敷跡発掘調査団を編成し、発掘調査を同調査団に事業委託して調査を実施した。

調査団の構成は次のとおりである。

上田藩主屋敷跡発掘調査団

- 顧 問 五十嵐幹雄（上田市文化財保護審議会委員・日本考古学协会会员）  
小池 雅夫（上田市文化財保護審議会委員）
- 團 長 塩入 秀敏（上田女子短期大学助教授・日本考古学协会会员）
- 調 査 員 猪熊 啓司（長野県長野高等学校教諭）  
川上 元（上田市教育委员会社会教育課課長補佐兼文化係長・  
日本考古学协会会员）  
寺島 隆史（上田市立博物館庶務学芸係長・長野県考古学会会员）  
倉沢 正幸（上田市立信濃国分寺資料館学芸員・長野県考古学会会员）  
塙崎 幸夫（上田市教育委员会社会教育課主事・長野県考古学会会员）
- 事 務 局 長 須藤 清彬（上田市教育委员会社会教育課長）  
事務局次長 川上 元（上田市教育委员会社会教育課課長補佐兼文化係長）
- 事 務 局 員 中沢 徳士（上田市教育委员会社会教育課学芸員）  
塙崎 幸夫（上田市教育委员会社会教育課主事）  
久保田敦子（上田市教育委员会社会教育課主事）  
小林香保利（上田市教育委员会社会教育課主事）
- 調査協力者 青島悦子、市村みつ子、酒井長二、清水潤二、竹内和好、穂戸田好江

### 第3節 調査日誌

平成2年

- 12月7日（金）晴 機材搬入。トレンチ調査開始。Tr-2東側において建物址の一部を検  
出しTr-5まで調査後、建物址付近を平面的に拡張する。
- 12月8日（土）晴 建物址の検出作業。遺構、全体測量。写真撮影。
- 12月9日（日）曇 遺構測量。写真撮影。

この後、上田市立信濃国分寺資料館において出土遺物の整理、報告書作成作業を行い、平成3年3月25日調査報告書が刊行され、調査はすべて終了した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 自然的環境

今回発掘調査を実施した上田藩主屋敷跡遺跡は、現在の長野県上田高等学校敷地内にある。地形的にみると、大きくは千曲川右岸に展開する第二段丘面の南側段丘崖に近い部分に所在しているといえる。この第二段丘面は、かつての上田城下町の主体部であり、現在では上田市の中心地域となり市街地化が進行しているところである。第二段丘面はまた上田面とも呼ばれており、北側にある太郎山麓線があたかも弓のような円弧を描いて上田面を囲み、南側の東西に一直線に走る比高約15mの段丘崖を、弓の弦にたとえることができる地形を呈している。天正11年(1583)真田昌幸によって築城された上田城は、ちょうどその矢をつがえる部分にあたり、弦の中心部に構築されたものといえる。

現在、上田市立博物館に「天正年間上田古図」といわれる古絵図が収蔵・展示されているが、これは真田昌幸が上田城を築城した前後の上田地域の様子がわかる唯一の資料といわれるものである。これは上田城(古図では「屋形」とある。)を中心に、上田面の特に水路を主体にして描かれたものであり、かなりの誇張もされているようで、正確さの点では若干の疑問も残る資料であるが、しかし千曲川の段丘崖の自然堤防上に築かれた、上田城とその北側に広がる後背湿地の様子がうかがえる絵図として知られ、当時の第二段丘面における自然環境がわかる資料としても貴重である。

こうした史料等を総合すると、本地点は上田城の東南部の城を近くに望むことができる場所であり、地形的にも城とほぼ同様な形状を呈した位置で、上田城と一体の関係にあったことがうかがえるのである。

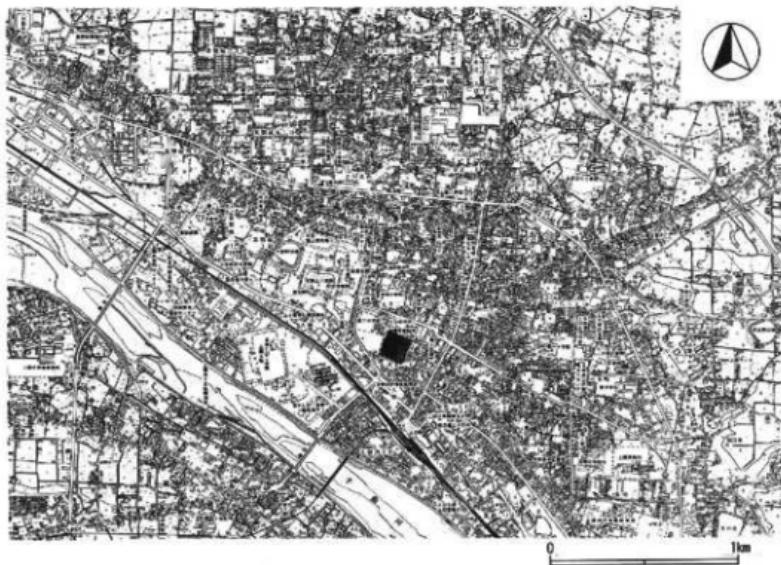
### 第2節 歴史的環境

旧上田藩主屋敷は上田城三の丸内にあり真田・仙石・松平の各藩主の居館となり、また藩の政庁であった。明治維新後は学校や裁判所として用いられ、明治8年第十六中学区予科学校がここに設置されて以来、小県郡立高等学校、郡立小県蚕業学校、長野県上田中学校、長野県松尾高等学校に変遷し、現在の長野県上田高等学校に至っている。

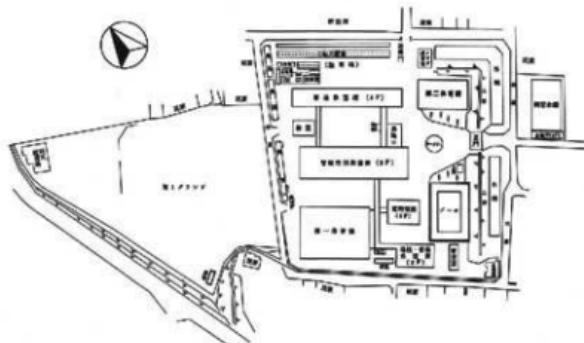
なお、前述した「上田古図」中の「屋形」(上田城)の右下、つまり東南の位置に「常田御屋敷」と書かれた場所がみられる。ここが今回発掘調査を実施した、現在の上田高等学校の敷地であり、かつての上田藩主屋敷のあった場所である。したがって、古い時代にはこうした名称の地

であったことがわかる。『長野県町村誌』によると、ここは常田氏代々の居館であったが、常田氏は真田昌幸に属し、上田築城の際、その外郭を築く時に郭内になったとある地である。昌幸の時代は具体的にどのようになったかわからないが、その子信之の時代から、仙石氏、松平氏と代々の上田城主の屋敷となり、上田藩庁ともなったところである。

前述したように本地点は上田城の南東部の城を近くに望むことができる場所にあり、上田城と上田城下町時代には藩主の屋敷であり藩庁となつたこともうなづける。明治維新以後はまた各種の施設に用いられ今日に至っている。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地点位置図

### 第3節 基本層序

上田藩主屋敷は上田城の三の丸内に位置していたが、現在では市街地化され大手一丁目となっている。この付近は千曲川が右岸に形成した第2河岸段丘上にあたり、下部に安山岩、角岩、硅岩、閃綠岩、流紋岩等の河床円礫が堆積し、礫層の上部に層厚10~50cmの不規則な砂層が堆積し、さらに上部に旧鳥帽子火山群からの噴出物である凝灰質火山灰と角砾集塊岩が堆積している。上層の火山噴出物は極めて堅致で、上田城南側の尼ヶ淵では切り立った崖となっている。上田藩主屋敷跡は段丘崖に近く、全体として南西に傾斜しているがほぼ平坦な地形である。調査現場付近の標高は455m前後を測る。

今回の調査箇所は居館を作る際に造成され、その後も限られた敷地内で増改築、造成が繰り返されたため搅乱が著しく、遺物も近世から現代に至る各時代の瓦、陶磁器、ガラス、コンクリート塊等が混在して出土し、個々の時代の生活面、遺物包含層を識別するのは困難であった。

Tr-4 東側付近における層序はおよそ次のとおりである。

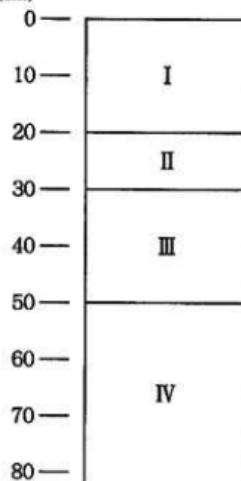
第I層 明灰褐色土。表土層で大小の礫を大量に含み、

上述した遺物、塵芥類が多量に混在する。総ま (cm)  
り、粘性に乏しい。層厚約20cm。

第II層 明褐色土。小礫、棧瓦片、塵芥類を含み、総ま  
り、粘性に乏しい。部分的に炭化物を多く含  
む。層厚10cm。

第III層 明褐色土。やや締まり、粘性は乏しい。小礫を  
含む。層厚20cm。

第IV層 暗黄褐色土。やや締まり、粘性を有する。



第3図 基本層序模式図

## 第3章 調査の結果

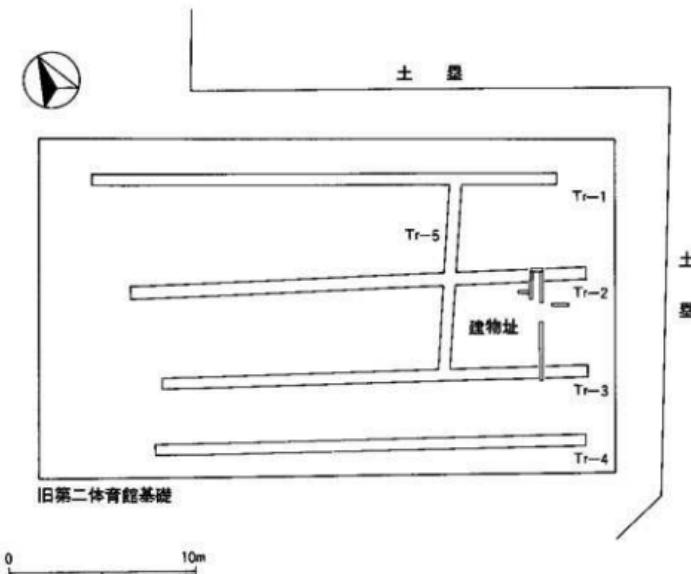
### 第1節 調査の概要

今回の調査地点は旧藩主屋敷の北東隅部にあたり、幕藩期には物置や番屋等の小建物が設置されていた区域である。鬼門除けの意味から主要な建物は設置されず、敷地内でも比較的空白の多い区域であったと推定されている。

調査は、主としてトレンチ方式によって実施された。第二体育館の地上部分を取り壊した後、建物敷地内にトレンチを掘削し、遺構の検出を試みた。

トレンチは東西に4本、南北に1本掘削したが、以前の施設建設工事のため、擾乱が地下深くまで及んでおり、Tr-2の東側で建物址1棟を検出した以外は遺構は検出できなかった。

Tr-2で検出された建物址は石灰岩製の切石が検出され、拡張した結果、L字状の雨落遺構と躰石列が確認された。この建物址は建設構造と位置から、明治33年から35年にかけて建築された旧長野県上田中学校の寄宿舎遺構と推測された。



第4図 調査区域全体図

今回の調査で出土した遺物は、瓦片約60点、陶磁器片17点、角釘1本等である。調査区域は擾乱が著しく、近世から現代にわたる各時期の資料が出土している。寄宿舎が設置されていた関係から近代の瓦、陶磁器類の出土は特に多く、出土した資料の多くは明治から大正期の遺物と推定される。但し、幕藩期の遺物も皆無ではなく、刀装具の一部が表採されたという話もある。

## 第2節 遺構

今回の調査で検出された遺構は、Tr-2で検出された建物址1棟のみである。

検出されたのは建物址南東部の一部で、L字状に屈曲した雨落遺構と礎石列の一部である。

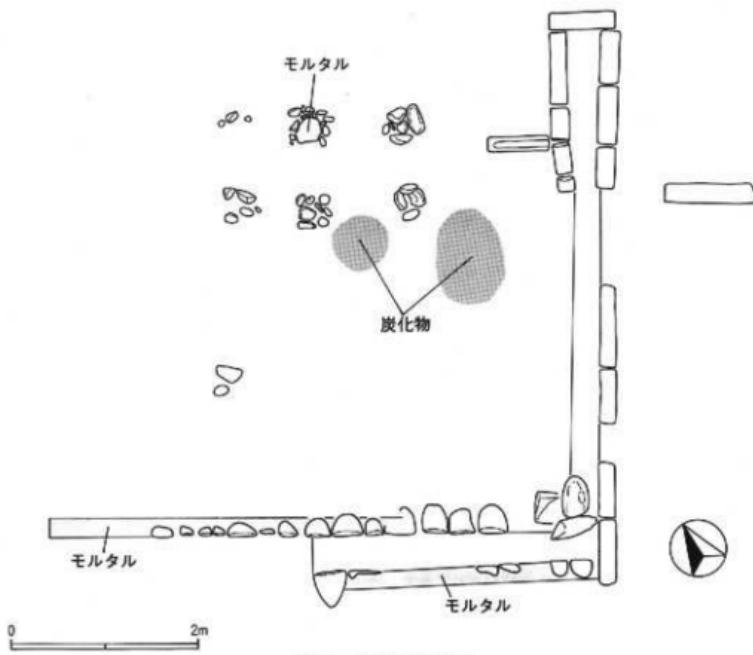
雨落遺構は南北に6.2m、東西6.1mの範囲で検出され、建物東面の部分では石灰岩の切石が雨落周縁に並べられていた。切石の断面は22×24cmを測り、長さは55~97cmと一様ではない。色調は明白灰色を呈し、軟質である。

雨落東側と西側に各1点の切石が据えられており、東側に何らかの建物が連続していた可能性が考慮される。西側の1点は雨落につながるように溝が切ってあり、樋からの雨水を受けるようになっている。

建物南面の雨落遺構は、半裁した河原石を面を揃えて並べてあり、切石は遺存していなかったが、上面にモルタルが遺存しており、その痕跡から南面にも東面と同様の切石が並んでいたものと推測される。

礎石跡は計7基検出され、そのうちの6基は東西2間、南北1間の規則的な配列を示す。いずれも小礎を突き固めて礎石としてあり、一部にモルタルが使用されている。礎石以外の部分も広範囲にわたって叩き締められており、一部で炭化物がまとまって検出されている。

本建物址はモルタルを使用した建築構造と位置から、明治33年に開校した旧制長野県上田中学校の寄宿舎遺構と考えられる。



第5図 建物址実測図

### 第3節 遺物

今回の試掘調査で出土した遺物は、棟瓦片約60点、陶磁器片17点、鉄製品1点である。

前述したとおり、調査区域は擾乱が著しく、コンクリート塊やごく最近の所産と思われる陶磁器片、瓦片、ガラス片等が大量に出土し、歴史的な遺物との識別は困難であった。

以下、出土遺物について概要を報告する。

#### 1. 陶器(図版5)

陶器片は6点出土した。小片が多く、器種、器形を推定できるものは少ない。

1～4は壺、甕の類と推定される。2が施釉される以外は無釉である。

5は急須口縁部で明褐色を呈する。

6は釉を施した小碗である。

## 2. 磁器（図版5・6）

磁器片は11点出土した。いずれも小破片で全器形の復元できるものはない。

7～10は椀の口縁部で、7は酸化鉄による褐色の施釉がされ、他はコバルト釉による染付である。

11～13は染付皿で、蛇の目状の底部周縁に僅かな高台が付される。11の底部には「分」と見られる墨書きが看取される。

14・15は染付の急須で、14は蓋、15は注口部である。

16は徳利片と推定される。

17は染付壺の底部で、下半部と高台部に横線文を有する。

## 3. 鉄製品（図版6）

鉄製品は角釘が1点出土している。遺存状況は良好で、全長13.9cm、断面は頭部に近い部分で10.2mm×9.8mmを測る。

## 4. 瓦（図版6）

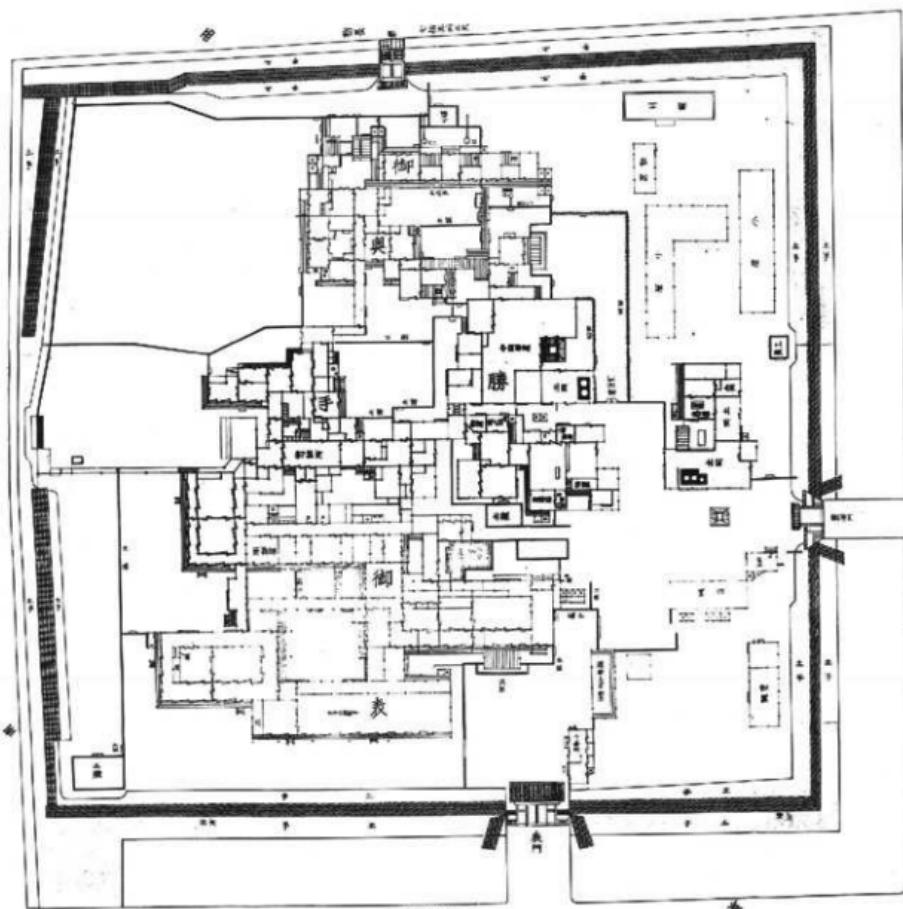
瓦片は今回の調査でもっとも多量に出土し、約60点が採集された。すべて棟瓦片で小片に破碎している。19・20は共に軒瓦である。瓦当面は無文で、棟の先端部も無文の鶴頭形に成形されている。慢頭形部分の直径は19が8.8cm、20が9.3cmを測る。唐草瓦当部の垂れ幅は4.9cmを測る。胎土は共に微砂粒を含み精製されており、焼成は堅緻で、色調は19が銀黒色、20が明黒色を呈する。

## 第4章 調査のまとめ

今回調査を実施した地点は、上田高等学校敷地内の東北隅にあたる場所である。調査の主眼は旧上田藩主屋敷に係わる遺構の検出と、関連する遺物の確認にあった。しかし、遺物の項でもふれたように、若干は古い時代の資料も確認されたが、大部分は明治期以降の資料とみられるものであった。遺構についても、また狭い範囲内の調査でもあったため、当初予想した古い建物遺構は確認されなかった。今回検出された切石を伴う雨落遺構はモルタルを使った明かに明治時代以降の建物の一部であることが確認されたのである。とすれば、明治33年に開校した旧制長野県上田中学校時代の寄宿舎遺構の一部と考えることが妥当であろう。

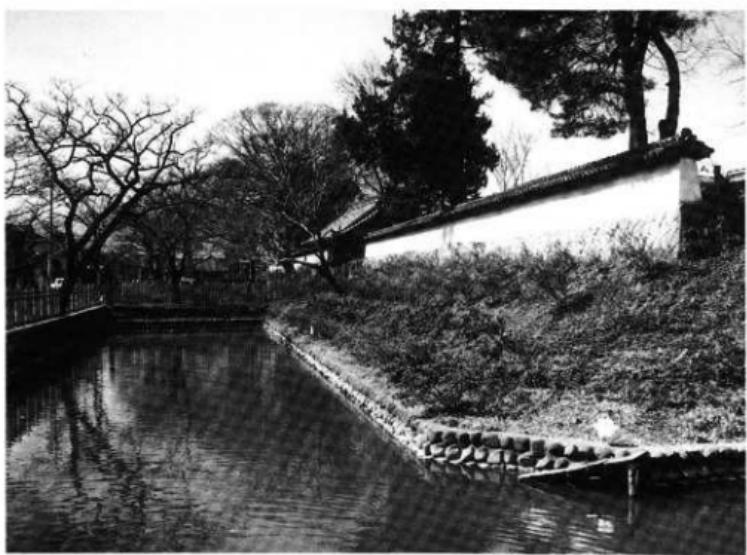
旧上田藩主屋敷にかかる遺構は、上田高等学校の東側を囲む門・土塀・濠・土塁等にみられ、往時をしのぶことができる。しかし、内部についてはその面影は全くみられない。内部の建物は、松平氏時代の寛政元年（1789）に居館が全焼し、翌2年に再建されたものであるが、これらの建物で現在残るものは門のみとなってしまっている。

発掘調査を行った地点は、東側の正門に入った右手の敷地の東北隅にあたる部分である。昔から建物の東北方向を鬼門の方角といい、何かの信仰的な方策を講じる場所である。現在、東北隅の土塁上にあるエンジュの大木もこれに関連して植えられたものという。松平神社旧蔵の「御屋形古図」には、本屋敷内の詳しい見取図が示されているが、これらの古図をみても東北隅部分には主要建物がみられない。せいぜい簡単な物置程度の建物がこの付近にあるだけである。こうしたことから考えると、この地点は特殊の場所であり、もともと主要建物はなかったものとみることができるのであろうか。今後さらに検討していかたい。



第6図 御屋形古図(昭和15年刊『上田市史』付図)

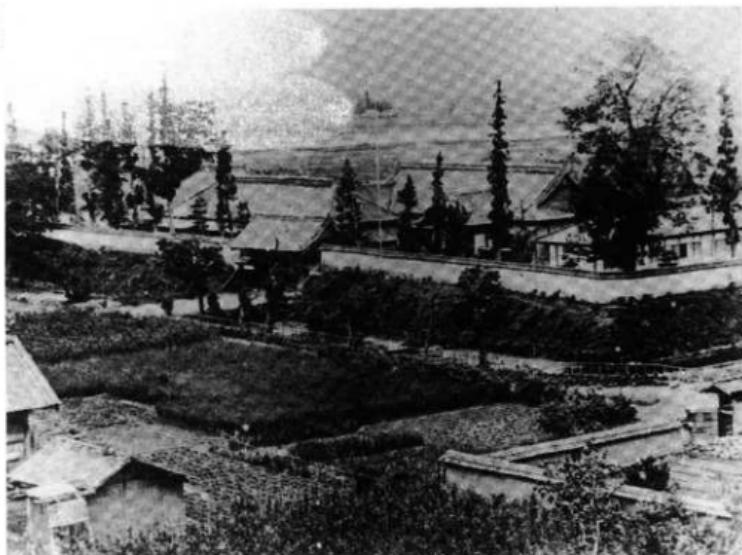
# 図 版



上田藩主屋敷（北東より）



上田藩主屋敷表門（東より）



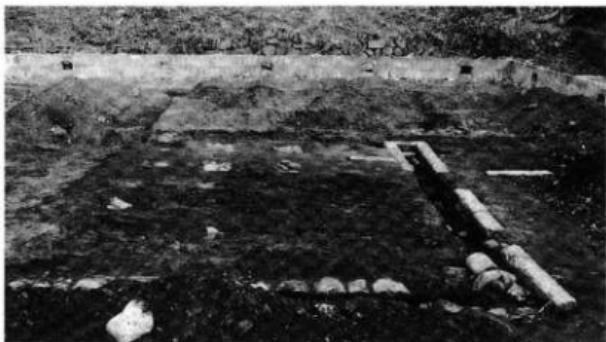
上田藩主屋敷（明治 21 年撮影）



上田藩主屋敷式台（明治 30 年頃撮影）



調査区域全景（南西より）



建物址（南より）



建物址（東より）



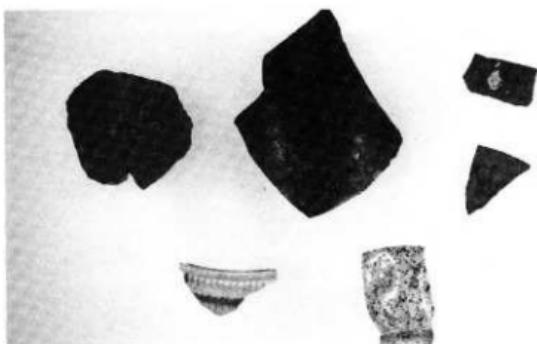
建物址部分（南東より）



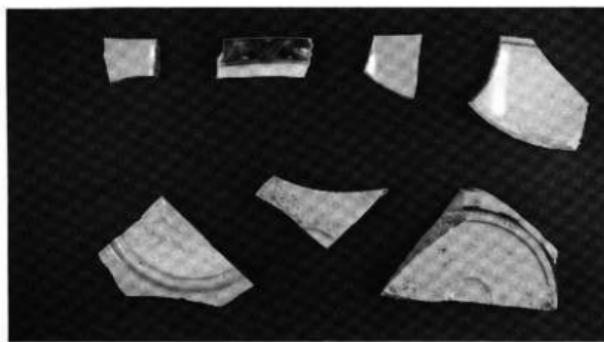
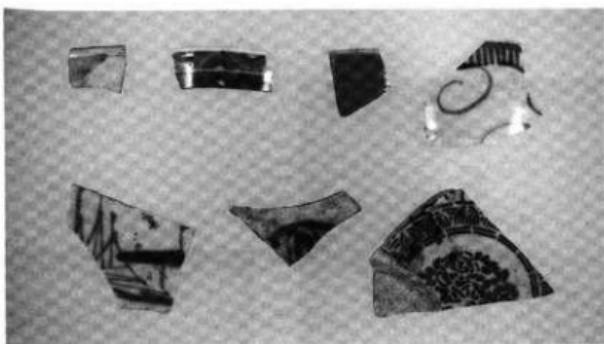
建物址部分（西より）



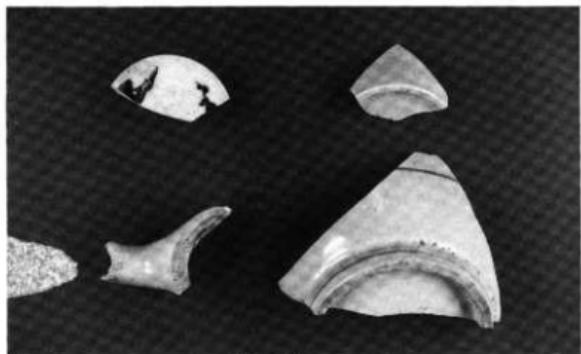
建物址部分（東より）



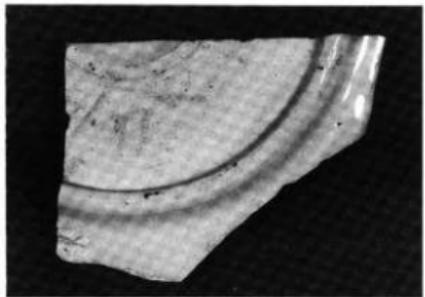
出土遺物（陶器 1~6）



出土遺物（磁器 7~13）



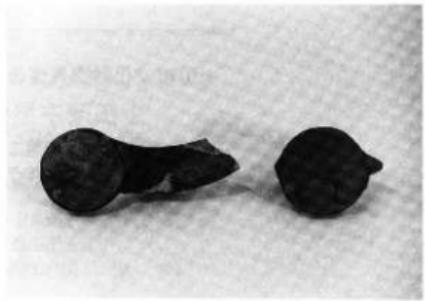
出土遺物（磁器 14～17）



墨書（磁器 11）



出土遺物（角釘 18）



出土遺物（軒瓦 19・20）

---

上田市文化財調査報告書第42集  
上田藩主屋敷跡  
長野県上田高等学校第二体育館  
解体新築事業に伴う試掘調査報告書

発 行 平成3年3月25日  
上田市教育委員会  
印 刷 田口印刷株式会社

---